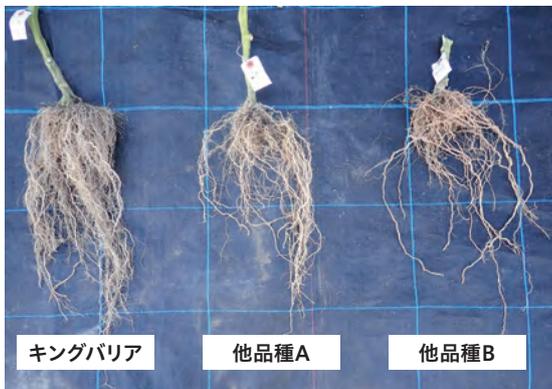




JAめぐみの「キングバリア」のスタミナと「桃太郎みなみ」の着果のよさで夏秋トマトの安定生産を目指す

(編集部)

↑左から美濃白川夏秋トマト部会の中島絢也部会長とJAめぐみの白川営農経済センターの田口慎也さん。
②着果がよく裂果が少ない「桃太郎みなみ」(菱田副部会長のハウスで)。
③「桃太郎みなみ」(4kgの出荷箱)。
④2021年11月に美濃白川地域で掘り上げ調査した、「キングバリア」の根。



↑2021年11月に当地域で実施した根掘調査の様子。(タキイ種苗調べ)

30年以上続く苗生産
青枯病対策として「キングバリア」を導入

JAめぐみのと美濃白川夏秋トマト部会では30年以上前からJAの育苗施設で接ぎ木苗の生産を行っています。接ぎ木苗の生産は4月中旬ごろにピークを迎え、5月上旬に苗を定植し、6

月下旬から11月中旬ごろまで収穫します。2025年度は目標14万ケース(4kg箱)、560tの出荷を目指しています。台木には「キングバリア」、穂木には「桃太郎みなみ」を中心に、その他が「桃太郎ギフト」という品種構成です。白川営農経済センター主任の田口慎也さんは生産者とともにおいしいトマトを消費者に届けるため、苗の生産から携わっています。

当地でトマト台木「キングバリア」が導入された理由は、青枯病対策でした。同レベルの耐病性をもつとされる他品種と比較試験を行った結果、青枯病に対する耐病性が一番安定していたとい

地域概況

美濃白川夏秋トマト部会が位置する美濃白川地域は岐阜県の中南部にある加茂郡の東部に位置し、平野部はわずかでその多くが山間地となっています。主要産業は、林業関連産業で特に優良材「東濃松(ひのき)」の生産と特産「白川茶」が有名です。中山間地域の特徴を生かし、夏秋トマトの生産も盛んで、可茂農林事務所が中心となって運営する美濃白川就農応援会議による新規就農者支援も行っています。





↑「桃太郎みなみ」は着果位置がそろい、着果性のよさがうかがえた。



→ 樹勢のバランスを見極めることが重要と語る菱田さん。

います。
また、「キングバリア」は茎が太いため接ぎ木の活着率が高く、水疱症の発生が軽減されたとのことでした。また、根量が多いため、セルトレイから苗を抜きやすいこともメリットです。2021年に弊社が当地区で実施した「キングバリア」の根掘り調査では、他品種と比べて株元付近の根量にボリュームがあり、主根と細根が長くそのバランスがよいことが確認されました（前頁）。

夏越しで14〜15段まで収穫するため、スタミナも重要です。「キングバリア」

続につながっているのではないかといいことでした。

裂果対策として「桃太郎みなみ」を採用

美濃白川夏秋トマト部会の部会員数は32名。栽培面積は全体で約5・5ha、品種は食味重視の「桃太郎」系。2024年産は「桃太郎みなみ」と「桃太郎ギフト」の割合が半々でしたが、2025年には主に裂果対策、秀品率向上を目標して「桃太郎みなみ」が大幅に増加。全体の約9割を占めるまでに増えました。

2023年にJAめぐみの管内で実施された品種比較試験では、「桃太郎みなみ」が「桃太郎ギフト」と比較して、7〜11月の合計収量で約0・7t増加、A品率は2倍以上になり1kg当たりの平均単価が50円以上上昇する結果となりました。

着果がよく、裂果が少ない「桃太郎みなみ」

部会長の中島絢也さんは2023年作まで「桃太郎ギフト」を中心に栽培していました。その理由は味へのこだわりです。「トマトを作る者として、やはり消費者にうれしいものを届けたい」という思いが生産者としてのモチベーションにもなるため、「桃太郎」系の品

種に産地としてもこだわっています。

しかし、JAめぐみでも温暖化による温度上昇の影響が出ています。「桃太郎ギフト」の近年の生育傾向は盛夏期の着果が悪く、着果しても形状の乱れや裂果が発生することでした。標高400〜700mの山間地に位置するJAめぐみにおいても、夜温が25℃以下に下がらなくなり、確実にトマトの生育に影響を与えていました。次の手立てを探していた矢先、「桃太郎みなみ」の試験が始まりました。

中島部会長は約30aのハウスで大玉トマトを栽培、5月上旬の定植では主力の「桃太郎ギフト」の後は「桃太郎みなみ」を10日おきに約6000本定植しました。昨年の結果も踏まえて成績について何うと、裂果が少なく秀品率が高いこと、収量としては「桃太郎ギフト」と比較して1割程度上がっているとのこと、品種を切り替えた手ごたえは十分にあるとおっしゃっていました。

続いて、取材したのは標高650m付近のハウスでトマトを栽培する副部会長の菱田豊喜さんです。約45aで夏秋トマトを栽培し、2024年作から「桃太郎みなみ」を導入されています。

「桃太郎みなみ」は着果がいいと盛夏期でも安定した着果を評価。果実の肥大については、昨年は「桃太郎ギフ

ト」と比べて小玉傾向で収穫期が1週間遅い時期もありましたが、今年の特候では肥大と色回りが同程度となっています。着果はいいけど、樹勢のコントロールについてはまだまだ見極めが必要。3〜4段目の収穫を終えて、少し樹勢が回復してきた「桃太郎みなみ」は、「桃太郎ギフト」と比べて施肥量を2倍（追肥がチッソ成分で10日おきに3〜4kg）にして管理し、朝、昼の2回のこまめな灌水が行われていました。

「桃太郎ギフト」の味のよさを継承しつつ、「桃太郎みなみ」の着果のよさを生かし市場が求める果実のかたさをぜひ実現してほしいと次なる後継品種への期待の声もいただきました。

選果場の機械も新しくなり選果効率向上したJAめぐみの「桃太郎みなみ」と「キングバリア」が安定生産の一役を担うことを願っています。



↑2025年から新しくなった選果機。選果効率が向上している。